

# えべつ 市議会だより

平成22年5月1日発行

## No.101

発行 江別市議会  
江別市高砂町6番地  
電話011(381)1051

編集 市議会報編集委員会  
印刷 株式会社須田製版



～認定こども園あけほの のびのび保育園 入園式～

新年度一般会計予算は  
411億5千万円に

## 主な内容

- ◇第1回定例会の概要…………… 2～3
- ◇一般質問…………… 4～7
- ◇予算審査の概要、議会の動き…… 7～8

市議会ホームページ <http://www.city.ebetsu.hokkaido.jp/gikai/>

●この市議会だよりは再生紙を使用しています。

# 平成22年 第1回 定例会

## 条 例

◎**重度心身障害者医療費助成条例の一部改正**  
身体障害者福祉法施行令の一部改正に伴い、肝臓機能障がい等新たに身体障がいの認定基準に追加されたことから、助成対象に追加するため所要の改正を行うものです。

◎**議会の議員その他非常勤の職員等の公務災害補償等に関する条例の一部改正**  
地方公務員災害補償法の一部改正に伴い、非常勤の職員等の補償制度において、船員保険の被保険者についても補償を受けられるよう所要の改正を行うものです。

◎**国民健康保険条例の一部改正**  
介護納付金課税分の課税限度額について、中・低所得世帯の負担軽減を図り必要な財源を確保するため政令基準と同額に改めるほか、後期高齢者医療制度の創設により被用者保険の本人が同制度に移行し国民健康保険に加入することになった旧被扶養者に対する保険税の一部減免措置を後期高齢者医療制度における取

扱いに準拠し、継続できるよう所要の改正を行うものです。

◎**普通河川管理条例・準用河川流水占用料等徴収条例の一部改正**  
農地法の一部改正に伴い、道の河川法施行条例が改正されたことから、これに準拠し河川敷地を農耕用敷地として使用する場合の占用料について、従前と同様の取扱いができるよう所要の改正を行うものです。

◎**市立病院使用料及び手数料条例の一部改正**  
医療技術の高度化等による保険外併用療養の拡大や在宅医療のニーズにこたえるため、訪問看護ステーションを開設することに伴い、これらの利用料金を整備するほか、使用料及び手数料について所要の改正を行うものです。



## 人事・一般議案

◎**公平委員会委員の選任**  
◇大塚久則氏(緑町西2丁目4番地の2)の再任に同意。

◎**市道路線の認定**  
開発行為に伴う造成や江別駅こせん人道橋の整備のため、3路線を認定した結果、市道総数は2千363路線、総延長は827・945kmとなりました。

◎**北海道市町村職員退職手当組合規約及び北海道市町村総合事務組合規約の一部変更**  
構成団体である胆振西部衛生組合が2月1日付けで、網走支庁管内町村交通災害共済組合が3月31日付けで解散・脱退することなどにより、所要の改正を行うものです。

◎**平成21年度各会計補正予算一般会計**  
決算見込みの反映や国等の補正予算の動向、その他緊急を要する措置などにより、7億265万1千円を追加し、予算総額は40億7千299万6千円になりました。

◎**国民健康保険特別会計**  
後期高齢者支援金の負担額確定などにより、969万8千円を追加し、予算総額は11億9千225万5千円になりました。

◎**介護保険特別会計**  
介護療養施設サービス給付費等の減に伴い、5千56万4千円を減額し、予算総額は65億7千584万7千円になりました。

◎**基本財産基金運用特別会計**  
土地貸付け等に伴う繰出金の増額により、646万5千円を追加し、予算総額は1億8千266万5千円になりました。

◎**平成22年度各会計予算**  
一般会計のほか、5特別会計と3企業会計予算が可決されました。審査経過等については、7ページ及び8ページをごらんください。

## 予 算

◎**水道事業・下水道事業各会計**  
給与改定による人件費の減や決算見込みなどにより、水道事業は総額で71万2千円を減額し、下水道事業は185万8千円を減額しました。

# 報 告

○病院事業会計  
給与改定による人件費の減など収入・支出に係る決算見込みにより、総額で2億2千749万9千円を減額しました。

◎土地開発公社、江別振興公社、在宅福祉サービス公社、スポーツ振興財団の事業計画に関する書類  
市が出資している公社や財団の新年度事業計画が報告されました。

## ◎専決処分

市役所本庁舎東口駐車場内で発生した車両事故の物的損害に係る賠償について、相手方との示談が成立した旨報告されました。

# 陳 情

## ■不採択となった陳情

◎最低保障年金制度の創設を  
求めることについて

全日本年金者組合江別支部  
支部長 森元昌輔氏

◎後期高齢者医療制度の廃止  
を求めることについて

全日本年金者組合江別支部  
支部長 森元昌輔氏

◎75歳以上の高齢者と、子ども  
の医療費の無料化。来年  
度から実施の70歳～74歳の  
高齢者の1割から2割への  
医療費負担を撤回すること  
を求めることについて

全日本年金者組合江別支部  
支部長 森元昌輔氏

◎「長寿祝金」制度の存続を求  
めることについて

全日本年金者組合江別支部  
支部長 森元昌輔氏

# 意 見 書

次の意見書を国に提出しま  
した。

◎改正貸金業法の早期完全施  
行等を求める意見書

2006年12月の改正貸金業法成立後、政府は多重債務相談窓口の拡充、セーフティ・ネット貸付けの充実、やみ金融の撲滅、及び金融経済教育を柱とする多重債務問題改善プログラムを策定し、官民が連携して多重債務対策に取り組んできました。その結果、多重債務者が減少するなど成果を上げつつある一方で、改正貸金業法の完全施行の延期や貸金業者に対する規制緩和を求める論調もあることから、このままでは自殺者や自己破産者等が再び急増することが懸念されます。よって、同法の早期完全施行はもとより、個人及び中小事業者向けの激変緩和措置を講じながらセーフティ・ネット貸付けのさらなる充実や自治体における多重債務相談体制充実のための支援等について速やかに実現するように国に要望しました。

◎政治資金規正法の抜本的見直し及び制裁強化を求める意見書

政治資金を巡る国会議員等の不祥事が発覚するたびに政治資金収支報告書の公開方法見直しや政治献金の規制強化など、政治資金規正法の改正が繰り返されてきましたが、国民の政治不信を招く政治と

## 一般会計補正予算の概要

事業内容	補正額(千円)
議員報酬等(期末手当支給割合の変更等に伴う減額)	△6,101
基金積立金ほか(財政調整基金等への積立て・土地開発基金への繰り出しによる増額)	534,704
衆議院議員総選挙執行経費(執行経費の確定による減額)	△9,166
職員人件費(給与改定等に伴う給料、諸手当等の減額)	△164,912
介護基盤緊急整備等特別対策事業(グループホームの基盤整備等に伴う増額)	40,134
障害者補装具給付費(前年度負担金の精算による増額)	1,707
自立支援医療給付費(人工透析患者数の増加等による増額)	14,000
障害者自立支援給付費(決算見込み等による増額)	66,881
重度心身障害者医療費(受給者数の減少による減額)	△17,370
子ども手当支給事務一般管理経費(電算システム導入経費)	10,378
民間保育所等入所委託費(保育単価の改定等による減額)	△11,478
子育て応援特別手当(国の執行凍結措置による減額)	△111,039
江別の顔づくり事業(野幌駅周辺土地区画整理事業)	△27,242
学校施設整備事業ほか(学校施設の改修工事等による増額)	46,800
校舎屋体耐震化事業(工事費の確定に伴う増減)	△124,482
地域活性化・きめ細かな臨時交付金(住区会館施設整備事業、市営住宅環境改善整備事業、学校施設整備事業ほか計8事業)	250,800
公債費(決算見込みによる償還元金の減額等)	△37,275
他会計繰出金(病院事業会計等への繰出金)	246,587
その他	△275
補 正 総 額	702,651

金の問題を断ち切るために再発防止に向けた法整備が強く求められています。

現行法では、政治団体の代表者が会計責任者の選任及び監督について相当の注意を怠った場合の罰金について規定されていないものの、実効性に欠ける内容と言わざるを得ず、政治家が説明責任を果たす具

す。よって、一層の制裁強化を図るため、政治団体代表者の会計責任者に対する監督責任を明記し、罰金刑を科せられる仕組みに改めるほか、会計責任者が不正行為を働いた場合、国会議員の公民権を停止する改正法案を今国会で成立

させるよう国に要望しました。

# 一般質問

今定例会では、11人の議員が一般質問を行いました。各議員が行った質問の中から、2項目を選び、要約して掲載しています。

たかま せんいつ  
**高間 専逸** 議員

新世クラブ

## いじめの予防教育

**問** 起こったことへの対処教育ではなく、予防教育が重要と考えるがいかがか。

**答** 学校では、人権や人格の尊重、生命の大切さなどを教育しており、小学校では、いじめを考える集会やポスター、標語などの作成、中学校では、中学生サミットにおいて、生徒会がいじめに関する取り組みについて発表するなど、児童生徒が自ら主体的に考え活動している。

いじめの問題については、予防教育が重要であると認識していることから、今後も関係機関と協力しながら、児童生徒が生き生きと学校生活を送ることができるよう取り組みたい。

## 橋の管理

**問** 市が管理する橋の点検は行われているのか。

**答** 市が管理する橋は147橋あり、主要道路に架かる橋りょうについては、5年に一度、目視点検を実施している。

21年度には、市が管理するすべての橋りょうの目視点検を実施し、点検結果をデータベース化したところであり、今後は、計画的な修繕や架け替えが実施できるよう、橋りょう長寿命化計画の策定を視野に入れ、準備を進めたい。

## 基金の活用

**問** 既存の基金を併合するなど、基金の積極的な見直しについて、どのように考えるか。

**答** 低金利時代にあつて、比較的小規模な基金を取り崩し活用することは、基金の規模を縮小し、将来の活用を制約することにもなることから、今後は設置目的の類似した基金を統合し、規模を拡大するなど、活用しやすい方法について、検討を重ねていきたい。

## 市有建築物の保全管理

**問** 財政支出を平準化するためには、施設の状態に沿った修繕計画を一元管理することが必要ではないか。

**答** 施設の情報を一元的に管理するためには、システム導入に相当の費用を要するほか、専門の組織が必要であるため、難しいと考えている。

維持保全については、修繕

すわべ ようこ  
**諏訪部 容子** 議員

民主の会

このほかに、江別市立病院について質問がありました。

履歴等の管理手法の改善や維持管理に関するマニュアルを速やかに作成するなど、計画的かつ効果的な保全に努めた



昭和47年建築の青年センター

みやかわ まさこ  
**宮川 正子** 議員

公明党

## 企業用地のリース制度

**問** 企業誘致における用地のリース制度導入について検討しているか。

**答** 現在、市が企業誘致に分類可能としている用地は、RTNパークにある土地開発公社の所有地のみで、売却を基本に進めている。

現時点では、市が土地を所有してリースすることは難しいと考えているが、リース方

## 要介護認定者の所得控除

**問** 障害者手帳の交付を受けていない要介護認定者で、障害者控除が受けられる場合の認定基準について伺う。

**答** 要介護認定者に対する障害者、特別障害者の区分は市町村長が認定しているが、詳細な基準が示されていないため、市町村により違いが生じている。

当市の基準は、道内の大半の市と同様に、65歳以上で要介護度1から3の方は障害者に、4及び5の方は特別障害者に認定している。

要支援認定者については、要支援の状態像と障がいとの程度を比較検討し、必要な方を認定していきたい。

このほかに、地域活性化、観光行政について質問がありました。





よしもと かずこ  
**吉本 和子** 議員  
 日本共産党議員団

**日常生活用具給付等事業**

**問** 現行の基準等を見直し、現状に見合った市独自の基準づくりが必要ではないか。

**答** 本事業は、障害者自立支援法の施行前から国の制度として実施しており、法施行後は、市町村の創意工夫により、地域の特性や利用者の状況などに応じて、柔軟に実施できる仕組みとなっている。

現在、障害者自立支援法自体が廃止の方向で検討されていることから、給付品目や基準額、さらには耐用年数等の見直しや独自基準などについて、今後の制度の在り方を踏まえ、検討していきたい。

**季節労働者の雇用**

**問** 通年雇用の促進に向けた今後の取り組みと課題について、どのように考えるか。

**答** 江別市・当別町・新篠津村季節労働者通年雇用促進支援協議会では、季節労働者の通年雇用を支援するため、地域自らの取り組みとしてホー

ムヘルパー講習を実施した。

積雪寒冷地は、冬期間工事がなくなることから、通年雇用が可能な事業所の開拓が課題であり、冬期工事の受注増が必要であるため、石狩管内の他の協議会と合同で、本州建設業者と地元企業とのビジネスマッチング事業を実施し、冬期工事の受注につなげることでできるような支援していく予定である。

このほかに、市長の政治姿勢、建設行政について質問がありました。

はやし  
**林 かづき** 議員  
 環境・平和・市民の会

**江別市情報図書館**

**問** 各種市政情報の資料について、市本庁舎の情報公開コーナーと同様に、配備すべきではないか。

**答** 情報図書館は、必要な資料や情報を市民に提供することを基本に運営している。

行政資料は網羅的に収集・整理し、閲覧に供しているが、市本庁舎一階の情報公開コーナーと内容が重複しているものや、一方にしかないものな

どがある。

これらはそれぞれ機能が異なる機関であるものの、市民へ行政資料を公開するという点では共通していることから、今後、必要なものは図書館にも配備したい。



**高卒者の進学支援**

**問** 市内の約8割の高校生が進学する中、高卒者の進学支援のため、奨学金制度を創設すべきではないか。

**答** 市では、市内在住の高校生を対象に奨学金を貸与しているが、大学等へ進学する際の特別な支援は行っていない。

22年度から予定されている高校授業料無償化などの影響を踏まえ、現在の奨学金制度の在り方について検討する予定である。

その上で、高卒者の進学への支援について、様々なニーズの調査を行うなど、奨学金やその他の仕組みづくりについて、研究したい。

みやもと ただあき  
**宮本 忠明** 議員  
 新世クラブ

**鉄道高架**

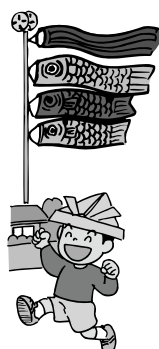
**問** 開通後の騒音や振動、雪対策は、新野幌駅舎はどのようになるのか。

**答** 道やJR北海道との協議の下、環境基準に従い、騒音については、現状を改善するための対策工法を講じる計画で、振動については、基礎に支持された構造物のため軽減すると予想されており、想定外の事態が生じた場合は、その都度対応されるべきものと考えている。

雪処理は、駅構内の軌道を除雪後、投雪口から排雪し、他の部分は高架橋内部にたい積すると聞いている。

新野幌駅舎については、現在JR北海道で詳細設計を実施中であり、新年度の早い時期の公表を期待している。

**顔づくり事業の影響**



**問** 事業の影響を受ける市民に対して、市はどのような対応を考えているか。

**答** 江別の顔づくり事業は、非常に長い期間にわたる事業計画であることから、多くの市民の理解を得ながら、一日でも早く完成することが重要であると考えている。

23年度には高架開業と街路事業の着手が予定されているなど、平成22、23年が節目であると考えていることから、進捗よく状況を整理し、できるだけ早い時期に説明会を開催したい。



おか ひでひこ  
**岡 英彦** 議員  
無所属

**地域産業政策**

**問** 企業誘致を含めた地域産業政策の重要性をどのように認識しているのか。

**答** 将来の地域経済発展のためには、優位性を生かす戦略を持ち、自らの力で経済の流れをつくり出すなど積極的な取り組みを進めるほか、新たな事業体制による産業や雇用創出に向け、既存企業や関係機関等による域内循環の仕組みづくりが必要である。

企業誘致においては、明確に目的を絞り、産学官の連携を強く意識して取り組む必要がある、食品産業の集積と振興に関連した取り組みは、正にこのような観点に立つて進めている。

**子育て支援策の優先度**

**問** 子育て環境の充実について市長の見解は。

**答** 子育て環境の充実については、保健・医療・福祉など市民生活の基盤となる様々な施策と深くかかわりを持つこ

とから、各種施策を重層的に進めていかなければならない。子育て世代に暮らしやすいまちと評価を受けることは、その子供である次の世代にも江別に住んでもらうこととなるため、非常に重要なことと考えている。

人づくりは最も大切な未来への投資であり、江別の未来を担う子供たちが、健康で人間性にあふれ、個性豊かに育つよう、重要な施策として積極的に進めていきたい。

みやざわ よしあき  
**宮澤 義明** 議員  
公明党

**転作農家の減収**

**問** 戸別所得補償制度の導入により、転作農家の減収額は幾らと試算しているのか。

**答** 米の生産・販売農家に対するモデル事業の実施とともに、転作に係る交付金制度が新たに創設されたことから、転作農家では大幅な減収になることを懸念している。

当市における減収額は、転作分として約4億7千万円、そのうち小麦のハルユタ力作付け分として、約4千700万円

を見込んでおり、農家ごとの作付けは異なるが、1戸当たりおおよそ120万円の減収になると考えている。

モデル事業の実施による減収分を補てんするため、激変緩和措置が取られる予定となっている。

**江別駅こせん人道橋**

**問** 江別駅のこせん人道橋の改築をより一層迅速に進めるべきではないか。

**答** 当該施設は、江別駅南側と江別駅とを連絡する重要な人道橋と認識しており、地域における大切な生活基盤として、市道に位置付けた上で、バリアフリー化や冬季対策など、利用者が安全で快適に通



行けるよう整備しようとするものである。

22年度には、地質調査と予備設計を実施するとともに、JR北海道や道との事前協議を行い、できるだけ早い時期に整備したい。

このほかに、子育てに関する国の施策、大麻団地のまちづくりについて質問がありました。

いとう つよし  
**伊藤 豪** 議員  
無所属

**議員定数**

**問** 議員定数を10人以下にした場合、行政執行上の問題はあるか。

**答** 国では、議員定数の上限数撤廃を内容とする地方自治法改正案を閣議決定しており、その推移を注目している。

当市の議員定数については、過去にも見直しがなされてきており、今後、議会において論議すべき事柄と考えている。議員数の増減などにより必要となる経費については、議会活動に支障が出ないよう配慮したい。

**れんが建築物の安全調査**

**問** れんが建築物の安全性について、調査研究結果はどうなったのか。



江別小学校のれんが校舎

**答** れんが校舎は、耐震性を評価する手法等が定まっていない実情から、社団法人北海道建築技術協会と協議した結果、れんが造り校舎の耐震診断確立に関する研究会が立ち上げられた。

市は、校舎建設当時の写真や現地建設関係の各種データなど現存する資料を提供、協力しており、今後の具体的な研究議論を注視していきたい。

このほかに、平成22年度予算要求に係る市民意見の募集について質問がありました。



ほしば よしこ  
**干場 芳子 議員**  
環境・平和・市民の会

**学校給食**

**問** アレルギーを持つ児童生徒に対応するため、検討委員会の設置やマニュアルの作成が必要ではないか。

**答** 給食センターでは、卵除去食の希望調査に合わせ、26種類の原材料についてアレルギー調査を行う予定であり、今後の対応について検討の場を設け、保護者にも参加を求め、意見等を聞いていきたいと考えている。

調査結果は各学校に通知し、個々の症状について共通認識を持つとともに、食物アレルギーが発症した場合に適切な対応ができるよう危機管理マニュアルを作成したい。

**少量ごみ袋の新設**

**問** 少人数世帯におけるごみ排出量等の課題について、どのように考えているか。

**答** 市では、高齢者や学生など単身者や少人数世帯から出る少量のごみについて、指定収集日に無駄なく排出できる

よう対応が求められているとの判断から、22年度中の少量袋の導入や分別区分の変更以降排出量が半減した燃やせないごみの収集回数見直しについて、現在、所管の審議会で手続を進めているところである。



このほかに、市民自治、福祉施策について質問がありました。

さいとう さちこ  
**齊藤 佐知子 議員**  
公明党

**がん対策の取り組み**

**問** がん検診受診率50%達成に向けた取り組みについて、どう考えるか。

**答** 国の目標である受診率50%達成に向けては、受診可能な環境整備と受診勧奨等の工

夫が不可欠と考えている。具体的には、従前からの検診費用の助成継続や子宮がん・乳がん検診の一定対象年齢の女性への無料検診の実施及びバス送迎による集団検診の通年実施のほか、すべてのがん検診をセットで受診できる集団検診の実施など、地域健康づくり推進員の協力を得ながら、積極的に啓発活動を進めていきたい。

**薬物乱用防止教育**

**問** 低年齢層や保護者世代を対象に、地域における対話集会を開催してはどうか。

**答** 薬物乱用防止教育については、効果の高い年齢に絞って実施しており、小学校学習指導要領でも高学年を対象としていることから、低年齢層については、関係機関や専門家と十分協議したい。保護者に対する注意喚起も非常に重要と考えていることから、五、六年生に実施している薬物乱用防止教室に保護者も参加するよう周知していきたい。

このほかに、子宮けいがんの予防、特別支援学級の設置について質問がありました。

**予算審査の概要**

一般会計ほか各会計の新年度予算案と条例改正など関連する議案等13件は、定例会初日に9名で構成された予算特別委員会に付託され、7日間にわたり審査が行われました。なお、本会議では、一般会計、国民健康保険特別会計、後期高齢者医療特別会計及び介護保険特別会計は賛成多数で、老人保健特別会計、基本財産基金運用特別会計、水道事業会計、下水道事業会計及び病院事業会計は全員一致で、いずれも原案のとおり可決されました。

予算特別委員会の審査では、各局に対して97項目にわたる質疑を交わしたほか、長寿祝金の存続を求める陳情について理事者に対する質疑を行っており、その概要をお知らせします。

**主な質疑の概要**

**問** 生活スタイルの変化に応じた水道料金体系の在り方など考えているのか。

**答** 固定費のほか、計画的に

基幹管路の耐震化を進める必要があることなどから、安全で安心な水を供給するために、基本水量8立方メートルを基準としながら、現行の料金体系を維持していきたい。

**問** 公立病院改革プランの収支計画と22年度予算との乖離をどう考えているのか。

**答** 当初目標としていた医師確保の時期がずれ込んだ影響もあり、一般会計からの繰入れなど臨時的措置を講じる中で、計画水準維持となった。22年度においては、専門内科医の着任など40名を超える医師体制の下、地域連携を推進しながら積極的な入院患者の受入れを進め、病床利用率70%以上を目指し、最終目標である単年度資金不足の解消に向け努力していきたい。

**問** 江別駅跨線人道橋整備工事の事業概要及び今後の予定はどのようになっているのか。

**答** 現時点の概算事業規模が約6億円で、利用開始が平成27年を予定しているが、既に都市計画決定を受けている鉄東線との整合を図りながら、江別駅周辺の環境整備を進めていきたい。

### 議会の動き

#### 【2月】

- 18日 経済建設常任委員会  
生活福祉常任委員会
- 19日 総務文教常任委員会
- 25日 議会運営委員会

#### 【3月】

#### 3日～26日 第1回定例会

- 3日 予算特別委員会
- 8日 生活福祉常任委員会  
経済建設常任委員会  
予算特別委員会
- 10日 議会運営委員会
- 10日～12日 一般質問
- 12日 議会運営委員会  
図書室運営委員会
- 15日～19日 予算特別委員会
- 23日 予算特別委員会
- 24日 総務文教常任委員会  
生活福祉常任委員会
- 26日 議会運営委員会  
議会報編集委員会

#### 【4月】

- 19日 議会報編集委員会
- 20日 総務文教常任委員会  
経済建設常任委員会
- 21日 生活福祉常任委員会

**問** 都市と農村交流事業に係るグリーンツーリズムの取り組み状況はどうか。

**答** 農産物直売所や貸し農園を設けるなど、農業者と連携し江別市の特色を生かした各種イベントを開催している。22年度は、江別産農産物のファンの拡大や農業の魅力を伝えるため、試行的に親子農業体験ツアーを企画するなど、今後も事業効果等を検証しながら農業者の独自の取り組みにつなげていきたい。

**問** 公共街路灯LED化事業の今後の計画はどのようになっているのか。

**答** 22年度は、環境に対する意識の高揚を図る観点から、広く市民に親しまれている野幌グリーンモールの公共街路灯47基をLEDに更新する予定であるが、今後は市内地域への導入や自治会で管理する防犯灯のLED化についても検討していきたい。

**問** ファミリーサポート事業の利用拡大に向けた方策をどう考えているのか。

**答** 通常のファミリーサポートと病児・病後児の預かりにも対応した緊急サポートネットワークの二本立てで実施しているが、22年度は、1歳児までを対象に通常のファミリーサポートの2時間無料券を配布するなど、事業周知と利用拡大を図り、依頼会員だけではなく提供会員の登録者も増やしていきたい。

**問** 行政評価外部評価事業は何を目的に実施するのか。

**答** 市が実施する内部評価結果の客観性や透明性を担保するため、市民を含めた外部評価委員による第三者の視点で評価結果を評価することを目的とするもので、行政に対する市民参加意識の促進につながることも期待している。

**問** 多額の事業費を伴う各種事業を進めるに当たり、今後どのように財政運営を進めていくのか。

**答** 市税や地方交付税等の地方一般財源が今後も一定程度確保されることが前提となるが、計画的な基金の運用や投資の工夫等により対応可能と考えている。

**問** 市債については、残高約370億円に対し毎年約45億円を償還しているが、金利等が現在と同水準と仮定した場合、将来的に現在と同程度の負担で推移していくと見込んでいる。

### 理事者質疑の概要

**問** 長寿祝金に対する市長の

認識と廃止に至った経緯はどうだったのか。

**答** 長寿祝金は、市民に対する敬老意識の醸成や生きがいづくりなど、非常に意義のある事業だと認識しているが、祝金を個人へ一律に支給するのではなく、市民全体で感謝の意を込め、心の通ったお祝いができる仕組みを構築すべきと考えている。

**問** 制度廃止後の代替案が示されていない中で廃止であるが、これまでどのような検討をしてきたのか。

**答** 100歳になられた方に対するお祝いに限定するのではなく、社会に貢献されてきたこれまでの足跡を市民の皆様に向けていたくなど、広く高齢者へ敬意や感謝の意を表する手法について検討してきた。将来的には更に高齢者が増える予想されるが、他の自治体の取り組みなどを参考にした上で、早急に代替策を協議していきたい。

このほか、総務文教常任委員会所管では、職員管理、学校給食事業など、生活福祉常任委員会所管では、生ごみ堆肥化支援事業、消防職員の勤務体制など、経済建設常任委

### 編集後記

足踏みしていた春もやっと訪れ、北海道も桜の季節となりました。

この春に入学・進学・就職された皆さんも、そろそろ新しい環境に慣れたころでしょうか。江別市には四つの大学があり、約1万2千人もの学生が学んでいます。初めて江別に住む方もいらつしやるでしょう。江別の良さをたくさん知っていただきたいと思います。

3月議会では、22年度予算が可決され、4月から新年度がスタートしましたが、国も道も、そして市も財政的に非常に厳しい状況が続いています。市民の方々と手を携え、ご意見を拝聴しながら、より住みやすい江別のビジョンを考え、歩んでまいります。

- 予算特別委員会委員
- ◎宮澤 義明
  - 高間 専逸
  - 赤坂 伸一
  - 鈴木 真由美
  - 相馬 芳佳
  - 高橋 典子
  - 角田 一
  - 林 かつき
  - 山本 由美子
  - ◎委員長 ○副委員長